

専門演習A

コミュニケーションを研究する

コミュニケーションの研究って？

- 大きく分けて2種類ある
 - 既存のコミュニケーションについて調べる研究
 - 新しいコミュニケーション方法・技術を作る研究
- ITコースではどちらもやります
 - 1番「作る寄り」なのは西田ゼミ！（宣伝）
 - 作ったら、作ったものが良いか評価もします

研究事例

- 西田のWebページを見てみましょう！
 - 「西田健志」で Google 検索！
- 英語の発音を日本人風に？
- 超消極的？
- コンテンツ視聴中？
- 傘連判状？
- ロックオン？

演習Aでの目標

- コミュニケーションの研究方法の中でも特にユーザテストについて、体験を通じて学ぶ
 - 被験者と実験実施者の両方の立場
- ユーザテスト
 - 作ったコミュニケーション方法・技術を、実際に近い環境で利用してもらって評価する

体験メニュー＆スケジュール

7月7日（今日）

→ コミュニケーションの実験を体験する

7月14日

→ 参加した実験結果を実際に分析する

よくあるユーザテストの流れ

- | | | |
|-------------|---|----|
| 1. 実験計画を立てる | } | 今回 |
| 2. 実験を実施する | | |
| 3. 結果を分析する | } | 次回 |
| 4. 結果を考察する | | |

(普通は「予備実験」をしますが、今回は割愛)

1. 実験計画を立てる

- 調べたい仮説を立てる
 - 「方法Aは良いかどうか」 → 「方法A vs. 方法B」
というようにシンプルな実験条件を設定する
- 条件どうしをなるべくフェアにする
 - 同じような被験者を用意する
 - 実験を実施する順番などを工夫する
- なるべくリアルな実験環境を用意する

2. 実験を実施する

1. 事前説明

- 何が記録されるか説明する
- 過度のプレッシャーを与えないようにする

2. 実験本番

- できるだけ詳細に記録を取る

3. インタビュー・アンケート

- 実験データの分析結果を考察するのに役立つ

実際に実験を体験してみよう

1. つづきはウェブで
2. 西田の Web ページの上にあるメニューから
講義情報 > 専門演習A と辿る
3. 「実験説明」をクリック